

令和6年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立国府小学校

1. 学校教育目標

「まなび つながり のびる 国府の子」
～ 地域とともに『生きる力』を育む学校 ～

2. めざす学校像

1. 学力向上をめざし、一人ひとりが生きる授業を大切にする学校
2. 子ども同士が繋がり合い、秩序と活気あふれる学校
3. すべての子どもに安心できる居場所がある学校
4. 地域と協働して子どもたちを育む「地域とともにある学校」
5. 教職員が役割とやりがいをもち組織的に対応できる学校

3. 学校経営方針（中長期的重点目標）

（1）学力向上・ICT 活用促進

- （ア）基礎学力の定着を徹底し、わかる喜び学ぶ喜びを実感できる授業づくり。
- （イ）一人ひとりの子どもが考えをもち、主体者として学ぶ授業づくり
- （ウ）算数科を中心に一人ひとりの子どもが ICT を活用した授業づくり
- （エ）保護者と連携した家庭学習の定着、ICT を活用した家庭学習の工夫
- （オ）日々の授業を丁寧に取り組み、互いに高めあう教師集団

（2）人権教育の推進

- （ア）一人ひとりの思いを大切し、互いの人権を尊重し合う心を育てる学級・学年集団づくり
- （イ）「あいさつ」が響き合い「あいさつ」でつながる仲間づくり
- （ウ）校区人権カリキュラムに基づく系統的な人権学習の実施
- （エ）子どもたちの行為を価値づけして誉め、自己肯定感をもたせる教職員体制
- （オ）いじめをしない、させない、許さない、見逃さない心を育てる

（3）すべての子どもに安心できる居場所がある学校・長期欠席改善

- （ア）特別支援コーディネーターを核とした全校で見守り育てる特別支援教育の推進
- （イ）子どもたちに寄り添い一人一人の子どもたちのニーズに応じた教育の実践
- （ウ）いじめや問題行動の未然防止
- （エ）児童の困り感の早期発見につとめ、児童が安心して学校に登校し、楽しく学校生活をおくることが最優先に考える学校運営
- （オ）国際教室での個別指導による外国人指導の学力保障

(4) 地域ぐるみの教育の推進

- (ア) 学校運営協議会の協議内容を学校運営に反映させ、連携に努める。
- (イ) 地域コーディネーターを中心に学校ボランティアとの連携を深める。
- (ウ) 地域の力を学校の教育活動につなげる。
- (エ) 「学校だより」「ホームページ」で、保護者、地域への積極的な情報発信

(5) 勤務時間の縮減等、教職員の職場環境の改善

- (ア) 定時退校日を月に2日以上設定し、設定した日の定時に退校できるように計画的に仕事を行う。
- (イ) 会議関係書類は二日前には関係教職員に配付し、事前に熟知し、効率化に努める。
- (ウ) 連絡報告などは週2回の打ち合わせで行い会議などの時短に生かす。
- (エ) スクールサポートスタッフの活用により、校務処理負担の軽減を図る。
- (オ) 備品、消耗品の整理整頓を心がけ仕事の能率化を図る。

(6) 非認知能力の育成

- (ア) 非認知能力に関する研修を行い、教員の非認知能力を育成する。
- (イ) 各部で取り組みにも意識づけをしていく。
 - やりぬく力・・・研修部
 - 自制心・・・生徒指導部
 - 自己肯定感・・・人権部
 - 社会性・・・人権部
- (ウ) 子どもたちの主体性を意図的に仕掛けていく。

※子どもたちのアンケートから決めたため

元気いっぱい 笑顔いっぱいの学校

美しく きれいな学校

思いやりがあり けんかのない 優しい学校